

# 研究員の眼

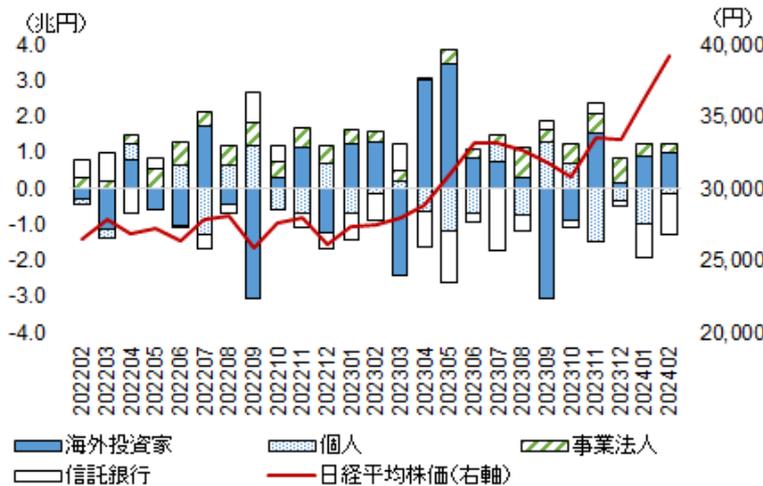
## 投資部門別売買動向(24年2月)

～海外投資家は4カ月連続買い越し～

金融研究部 研究員 森下 千鶴  
 (03)3512-1855 mchizuru@nli-research.co.jp

2月の日経平均株価は、月初は堅調な米経済指標を受けて米国の早期利下げ期待が後退し、3万6,000円台前半で一進一退の動きであったが、8日に日銀がマイナス金利解除後も緩和的な姿勢を継続するとの観測から3万6,863円まで上昇した。その後も、人工知能(生成AI)分野の成長期待を背景とした日米半導体関連株の上昇や、一時1ドル150円台まで円安が進行したことなどを好感し、15日には3万8,157円まで上昇した。下旬には、米国のエヌビディアの予想を大幅に上回る好決算を受け、日経平均株価は22日に3万9,099円と、約34年ぶりに終値で史上最高値(3万8,195円)を更新した。その後も3万9,000円台で堅調に推移し、月末は3万9,166円で終えた。このように日経平均株価が推移するなか、海外投資家、事業法人が買い越し一方で、信託銀行、個人が売り越した。

図表1 主な投資部門別売買動向と日経平均株価の推移



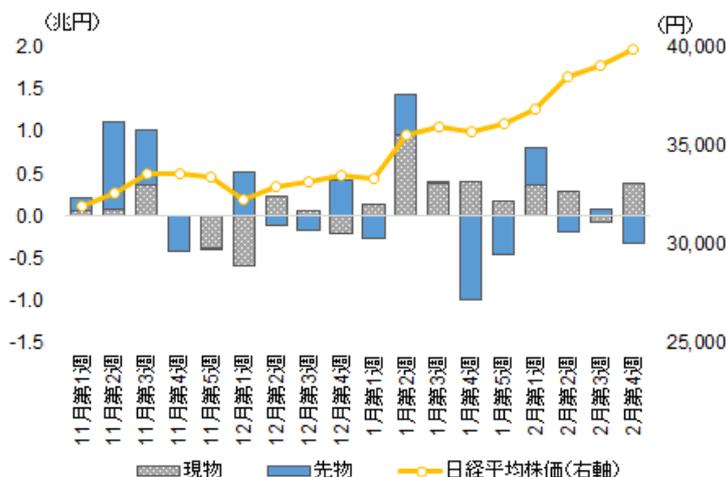
単位:億円 (億円未満切り捨て)		海外投資家	個人	証券会社	投資信託	事業法人	生保・損保	都銀・地銀等	信託銀行	日経平均株価 (円)
月次	202312	1,671	-3,575	-105	312	6,703	-153	-805	-1,252	33,464.17
	202401	8,942	-9,857	-428	-5,101	3,581	-116	-2,020	-9,291	36,286.71
	202402	9,937	-1,448	-269	590	2,329	-616	-5,201	-11,494	39,166.19

(注) 現物は東証・名証の二市場、先物は日経 225 先物、日経 225mini、TOPIX 先物、ミニ TOPIX 先物、JPX 日経 400 先物の合計

(資料) ニッセイ基礎研 DB から作成

2024年2月（2月5日～3月1日）の投資部門別の売買動向をみると、海外投資家が現物と先物の合計で9,937億円の買い越しと、2月最大の買い越し部門であった。図表2は、海外投資家の売買動向を現物と先物に分けて集計したものである。中長期資金が多いと思われる現物は、1月には全週で買い越しだったものの、2月は第3週（2月19日～22日）に売り越しに転じた。現物と先物の合計においては、2023年11月以降4カ月連続の買い越しを記録しているが、現物の買いの勢いは1月に比べて若干落ち着きを見せており、中長期的な資金流入は徐々に穏やかになっている可能性がある。

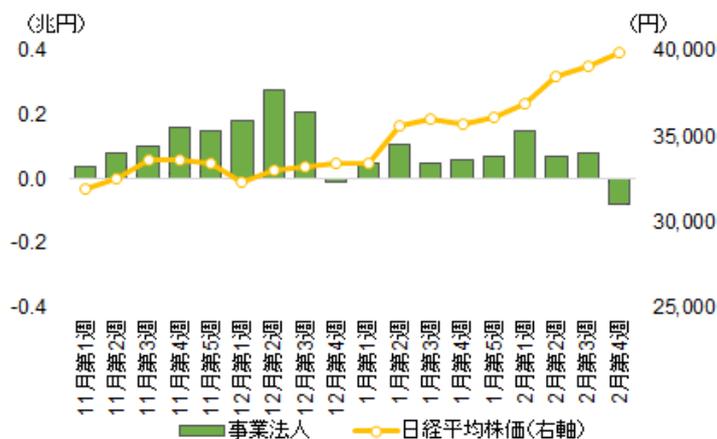
図表2 海外投資家は4カ月連続買い越しも、現物は第3週に売り越し



(注) 海外投資家の現物と先物、週次  
 (資料) ニッセイ基礎研 DB から作成

また、2月は事業法人も現物と先物の合計で2,329億円の買い越しと、2021年6月から33カ月連続で買い越した。

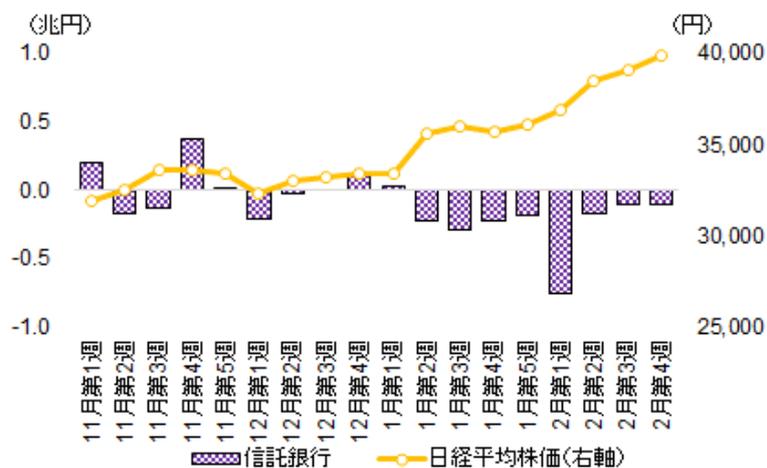
図表3 事業法人は33カ月連続買い越し



(注) 事業法人の現物と先物の合計、週次  
 (資料) ニッセイ基礎研 DB から作成

一方で、信託銀行は現物と先物の合計で2月に1兆1,494億円の売り越しと、最大の売り越し部門であった。2024年1月以降2カ月連続で売り越しを記録しており、日経平均株価が上昇するなか、利益確定の売りが優勢となったようだ。ただし、例年、年度末には配当金の再投資などにより買い越し傾向が見られる。そのため、3月は、特に最終週に向けて買いが優勢になる可能性が高いだろう。

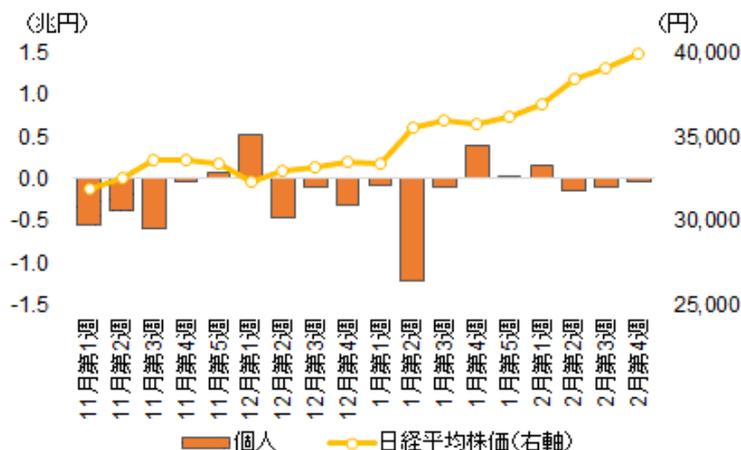
図表4 信託銀行は2カ月連続の売り越し



(注) 個人の現物と先物の合計、週次  
(資料) ニッセイ基礎研 DB から作成

また、2月は個人も現物と先物の合計で1,448億円の売り越しとなった。現物と先物合計で2023年11月以降4カ月連続の売り越しを記録した。しかし、日経平均株価が上昇を続け、史上最高値を更新した2月の売り越し金額は1月以前と比較して少なくなっており、市場においては、個人の利益確定と買い遅れを懸念する動きがあり、売りと買いが交錯している様子が見られる。

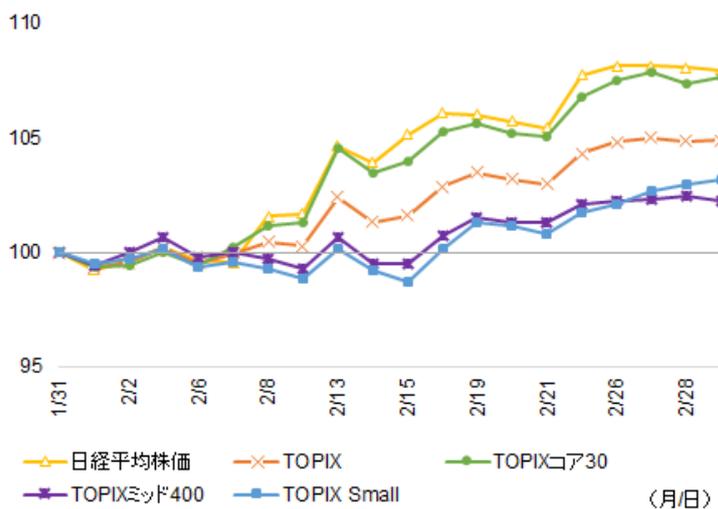
図表5 個人は4カ月連続の売り越し



(注) 個人の現物と先物の合計、週次  
(資料) ニッセイ基礎研 DB から作成

図表6は、2023年1月末を基準値100として、2月の代表的な指数の推移をまとめたものである。TOPIXコア30の大型株はTOPIXをアウトパフォームした一方で、TOPIX Mid 400やTOPIX Smallなどの中小型株はTOPIXをアンダーパフォームした。1月に続いて、海外投資家は大型株を中心に買い越していたようだ。

図表6 TOPIXコア30(大型株)が指数をアウトパフォーム



(注)2023年1月末を100として指数化  
 (資料)Bloomberg から作成

以上

お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。